

## II. 子ども育成学部

### 【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

子ども育成学部では、「次代を担う心身ともに健やかな子どもの育成を通して、地域社会の発展に貢献できる教育・保育・福祉の人材を養成すること」を、理念・目標に掲げる。このような理念・目標を踏まえて、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に、卒業を認定する。

#### 1. 人間性の向上 (DP1)

現代社会を生きる主体的な生活者として、また子ども育成を担う専門的職業人として必要な幅広い知識と教養を身に附けている。

#### 2. 専門性の向上 (DP2)

##### 2-1. 教育・保育・福祉の専門職としての資質・能力 (DP2-1)

子どもの生活・発達の連続性と家庭・地域・社会環境との関係性について理解し、子ども育成の理念と専門的知識・技術、実践力を身に附けている。

##### 2-2. 地域に生きる専門職としての資質・能力 (DP2-2)

地域の特色ある教育・保育・福祉の実践に学び、地域に愛着と誇りを持ち、地域に根づいた教育・保育・福祉の実践力を身に附けている。

#### 3. 社会性の向上 (DP3)

国や地域を越えた広い視野、人間信頼と共同連帯の精神を持ち、生涯にわたって自己を高める努力を続けようとする意欲と態度を身に附けている。

## 1. 学部の教育理念・目標

### 1-1 学部の設置目的

子ども育成学部は、心身ともに健やかな子どもの育成を通して地域社会の発展に貢献できる人を養成し、教育・保育・福祉など子ども育成に関する基礎的・専門的・実践的教育研究を行うことを目的として設置されています。  
(学則第1条の2第2号を参照)

### 1-2 教育理念・目標

21世紀のわが国は人口減少時代を迎え、次代を担う子どもの育成と、教育・福祉・社会システムの再構築が求められています。教育は、個人の尊厳を重んじ、国家・社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われるものであり、福祉は、個人の尊厳を尊重し、その健やかな育成と自立・社会参加・共生の地域福祉社会の形成を期して行われるものです。

子ども育成学部では、子どもを連続した発達主体としてとらえる時間軸と、子どもを家庭や地域社会との関係性の中でとらえる空間軸のハイブリッドの視点に立ち、「子ども育成学」の構築を視野に、「現代社会を主体的に生きるための幅広い知識と教養、子ども育成の専門家としての確かな資質能力と学びの精神をもって、地域社会の発展に貢献できる人材の育成」を教育目標としています。

### 1-3 学部がめざす人材像

子ども育成学部は、「子どもの最善の利益」を尊重するという理念や、専門的な知識技術と、豊かな人間性を併せ持ち、子ども育成の優れた実践能力を備えた人材の養成をめざします。以下はその具体像です。

- ① 子ども育成の専門家としての確かな資質能力と学びの精神を備えた人材
- ② 子どもの生活・発達・学びの連続性をふまえて、一貫した教育指導ができる人材
- ③ 子どものよりよい育ちのために、家庭・地域と連携・協力し、信頼される人材
- ④ 地域に愛着と誇りを持ち、地域に根づいた教育・保育・福祉の実践ができる人材

### 1-4 学部のカリキュラム・ポリシー

学部の教育目標を達成するために、次のカリキュラム・ポリシーにより教育課程を編成しています。また、学習成果を上げるための教育方法と、学習成果の評価方法を、以下に掲げます。

#### 1. 教育内容

子ども育成学部の教育課程編成・実施の方針は、在学中に子ども育成に関する基礎的・専門的な能力の向上を図るため、教育課程を教養教育と専門教育により構成し、各教育課程には、教育目標を達成するための科目を設定している。各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に定められたどの能力・素養の向上に寄与するかをシラバスで明示する。

##### 1-1. 教養科目「子ども育成の教養」科目区分

- (1) 人間理解と社会理解を深め、現代社会における人間のあり方について考える「共存・共生へのアプローチ科目」授業科目群を置く。具体的には、「人間理解科目」、「社会理解科目」を置く。
- (2) 現代の巨大潮流を理解し、変化する現代社会を生きる人間のあり方について考えるための「時代の潮流へのアプローチ」授業科目群を置く。具体的には、「国際化対応科目」、「情報化対応科目」、「環境との共生対応科目」、「少子高齢化対応科目」を置く。
- (3) 子ども育成の専門職業人への目的意識を高め、キャリアの実現をめざすための科目として、「キャリア形成」授業科目群を置く。
- (4) 生活文化と地域活動体験、主体的探究的活動を通して、生涯にわたる自己研鑽の基礎を培うための科目として、「演習」授業科目群を置く。

## II. 子ども育成学部

---

### 1-2. 専門科目

#### 1-2-1. 「子ども育成の理論と実践」科目区分

- (1) 子どもの生活・発達・教育に関する理論を学び、専門知識を身につけるための科目として、「子ども育成の理論」授業科目群を置く。
- (2) 子ども育成の内容・方法・技術を学び、実践の基礎的能力を身につけるための科目として、「子ども育成の内容・方法」授業科目群を置く。
- (3) 子ども育成の実地での体験を通して、実践的能力を身につけるための科目として、「子ども育成の実習」授業科目群を置く。

#### 1-2-2. 「子どもの発達と相談支援」科目区分

- (4) 子どもの心身の発達や社会環境に関する理解を深めるための科目として、「子どもの発達と環境」授業科目群を置く。
- (5) 子ども理解を深め、相談・支援に関する知識・技術を身につけるための科目として、「子ども育成の相談・援助」授業科目群を置く。
- (6) 子どもと家庭の福祉、地域社会に関する理解を深めるための科目として、「子どもと家庭・地域の自立支援」授業科目群を置く。

#### 1-2-3. 「富山の子ども育成」科目区分

- (7) 地元富山の特色ある教育・保育・福祉活動への参加体験を通して、地域の実践に学び、子ども育成における地域連携の重要性について理解するための科目として、「富山の子ども育成科目群」を置く。

#### 1-2-4. 「子ども育成の研究」科目区分

- (8) 4年間の学びの集大成として、レポートの作成や発表を行うことを通して、生涯につながる自己研鑽と研究的態度を養うための科目として、「子ども育成の研究」授業科目群を置く。

#### 1-2-5. 副専攻プログラム

- (9) 国際社会で活躍できる、外国語コミュニケーション能力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（グローバル人材育成プログラム）を置く。
- (10) 地域社会で活躍できるリーダーとなり得る、課題解決力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（地域創生人材育成プログラム）を置く。

## 2. 教育方法（授業方法）

子ども育成学部では、各授業科目において、確実な理解と学習成果を上げるための教育方法として、一般的な知識教授型の授業方法以外に、以下の5つの中で各授業科目において可能な方法を積極的に実践する。

### (1) 対話型授業

教員が学生に一方的に講義するのではなく、学生も参加し、学生と教員が双方向的に対話や問答をしながら、理解を深める。

### (2) 演習・反復型授業

演習課題、具体的な事例についての考察、重要な事項について反復学習をすることにより、確実な理解を図る。

### (3) グループ学習

学生同士が複数のグループに分かれ、設定した課題について、グループの構成員が共同で解決に当たる。

### (4) 地域フィールドワーク

地域の教育・保育・福祉施設等の現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、理解を深める。

### (5) 授業外学習指導や自主学習

授業外で教員が個別に学習指導したり、学習課題や調査課題などを与え、学生の自主的な学習を促す。

## II. 子ども育成学部

### 3. 教育評価

- (1) 個々の授業科目の成績評価にもとづいて、学生自身が各科目で設定された到達目標の達成度を評価する。
- (2) 各授業で実施される授業アンケートを通じて、教員が学生の授業理解や満足度、授業目標の達成度を評価する。
- (3) 教養演習等におけるグループ発表や個人研究のレポート等、成果物の作成や発表を通じて、現代社会を生きるための基礎的な知識・技術の習得状況を評価する。
- (4) 4年間の学修成果である卒業研究によって、専門性の達成度を評価する。
- (5) 各分野の「履修カルテ」を利用した振り返りを通じて、学生自身が自分の成長のプロセスを評価する。
- (6) 卒業直前オリエンテーション時における学生アンケートを利用した振り返りを通じて、学生自身が4年間における自分の成長を総合的に評価する。

## 2. 学部の教育課程

### 2-1 教育課程の編成方針及び特色

子ども育成学部では、教育・保育・福祉の3分野を幅広く学ぶことができるための教育課程を編成しています。また、各分野の根幹をなす基礎科目、各分野を統合的な視点で学ぶ「子ども育成」関係科目を教育課程の中核に据えています。

子ども育成学部の教育課程の特色は、三つの点に集約されます。

#### ① 子どもの育ちとその環境を一体的に捉える。（教育と福祉のハイブリッド）

子どもの育ち（人間形成）とその環境（人間形成の環境）を一体的に捉えていくことを、教育課程編成の基本に据えています。

乳幼児から学童期にかけての子どもを連続した発達主体としてとらえて、年齢的区分を超えて一貫した教育指導を行う「保・幼・小の連携」と、子どもが育つ環境としての家庭・地域・社会との関係の中で子どもを理解し、「よりよい育ちの環境」を整えていく課題に対応できる幅の広い視野を養います。

#### ② 少人数できめの細かい実践的専門教育を推進する。

小学校教育・保育・幼稚教育・社会福祉などの各専門分野の養成課程を適切に組み合わせた上で、現場実践に直接かかわる科目を多く配置しています。

実践力の養成・向上のための演習や模擬授業（保育）、事例研究など少人数できめの細かい実践的専門教育を推進します。また、教育・保育・福祉の専門職養成に必須の学外実習を重視し、事前指導、事後指導や実習校・施設の現場指導者との十分な連携の下に指導を行います。

#### ③ 「地域で学ぶ」「地域に学ぶ」「地域で育つ」ことを重視する。

地域の特色ある教育・保育・福祉の実践に学ぶため、地域社会参加活動やインターンシップ（就業体験）、自主研修など学生が自らの体験を通して、「地域で学ぶ」、「地域に学ぶ」、「地域で育つ」ことを重視しています。時代と地域の最前線の実践的課題や展望について学びながら、それらを教育・保育・福祉の理論・実践にフィードバックさせて理解を深めなおすよう配慮し、「座学」や「教養」だけではなく、「生きた理論」、「現実とともに歩む学問」をめざしています。

### 2-2 教育課程の編成

子ども育成学部の教育課程は、学部の教育理念・目標を達成するために必要な学修ができるよう、体系的・系統的に編成されています。

授業科目は、「教養科目」と「専門科目」に大別されています。授業科目には、「必修科目」、「選択科目」、「自由科目」があり、所定の「開講年次」と「開講時期」（前期・後期・通年）に開講されます。「必修科目の全科目（単位）」と「必要とされる選択科目（単位）」を取得すれば、卒業要件が満たされて、「学士（教育学）」の学位が授与されます。

## II. 子ども育成学部

また、教育課程には、小学校教諭(一種)養成課程、幼稚園教諭(一種)養成課程、保育士養成課程の履修に必要な科目、社会福祉士国家試験受験資格指定科目、スクールソーシャルワーク教育課程科目、社会福祉主事任用資格科目も組み込まれています。それぞれの「免許・資格に必要な科目」を履修すれば、卒業時に所定の申請手続きをすることで免許・資格を取得することができます。

(社会福祉士資格は、卒業年度の末に実施される国家試験に合格することが必要です。)子ども育成学部では、これら複数免許・資格の取得を推奨しています。

### 2-3 学部がめざす人材像と教育課程の対応

教育課程は、「教養科目」と「専門科目」から成り立っています。また、それらは「子ども育成の教養」、「子ども育成の理論と実践」、「子どもの発達と相談支援」、「富山の子ども育成」、「子ども育成の研究」の5つの科目区分に分けられています。これらの科目区分は、「学部がめざす人材像」との対応を考慮して設定されています。

### 2-4 教育課程の体系

教育課程は、「区分・科目区分・授業科目群」から成り立っています。それぞれの「ねらい」と「目標とする人材像との関連」は次のとおりです。

#### 教育課程の体系

(平成26年度以降の入学生)

区分・科目区分・授業科目群		ねらい	設置の趣旨・人材像との対応・関連
教養科目	子ども育成の教養	現代社会を生きる主体的な生活者として、また子ども育成を担う専門的職業人として必要な、幅広い知識と教養を身につける	子ども育成の専門家としての確かな資質能力と学びの精神を備えた人材
	共存・共生へのアプローチ	人間理解と社会理解を深め、現代社会における人間のあり方について考える	
	時代の潮流へのアプローチ	現代の巨大潮流を理解し、変化する現代社会を生きる人間のあり方について考える	
	キャリア形成	子ども育成の専門職業人への目的意識を高め、実現をめざす	
	演習	生活文化と地域活動体験、主体的探究的活動を通して、生涯にわたる自己研鑽の基礎を培う	
専門科目	子ども育成の理論と実践	子どもの生活と発達、教育に関する専門知識及び子ども育成の実践力を身につける	子どもの生活・発達・学びの連続性を踏まえて、一貫した教育指導ができる人材
	子ども育成の理論	子どもの生活・発達・教育に関する理論を学び、専門知識を身につける	
	子ども育成の内容と方法	子ども育成の内容・方法・技術を学び、実践の基礎的能力を身につける	
	子ども育成の実習	子ども育成の実地での体験を通して、実践的能力を身につける	
専門科目	子どもの発達と相談支援	子どもの発達と環境の関係、相談支援のあり方、子ども育成における家庭・地域との連携の必要性について理解する	よりよい子どもの育ちのために、家庭・地域と連携・協力していく人材
	子どもの発達と環境	子どもの心身の発達や社会環境に関する理解を深める	
	子ども育成の相談・援助	子ども理解を深め、相談・支援に関する知識・技術を身につける	

	子どもと家庭・地域の自立支援	子どもと家庭の福祉、地域社会に関する理解を深める	
	富山の子ども育成	地元富山の特色ある教育・保育・福祉への参加体験を通して、地域の実践に学び、子ども育成における地域連携の重要性について理解する	地域に愛着と誇りを持ち、地域に根づいた保育・教育の実践をめざす人材
	子ども育成の研究	4年間の学びの集大成として、論文の作成や発表を行うことを通して、生涯につながる自己研鑽と研究的態度を養う	子ども育成の専門家としての確かな資質能力と学びの精神を備えた人材

### 3. 3年次編入学

#### (1)既修得単位の認定

編入学生は、富山国際大学学則（第 25 条・第 25 条の 2・第 26 条）の規定に基づき、本学子ども育成学部の該当年度の教育課程表に準拠して、従前の学校の単位を単位数として入学時に認定する「既修得単位の認定」を受けることができます。申請時には単位を修得された学校の成績証明書（6か月以内発行）とシラバスが必要です。教職の免許状を取得した場合は免許状の写しも提出してください。

#### (2)履修登録

「既修得単位の認定」を確認した後、希望する資格免許の必修科目等に応じて履修登録を行ってください。なお、履修登録は web 登録ではなく、所定の用紙に手書きで事務に提出してください。時間割によっては必修科目が重なっている場合がありますので、編入時の個別履修指導担当教員及びゼミ担当教員、事務職員による指導を受けて、2年間を見通した計画を立ててください。授業の日程が変更になり、授業が重なる場合も考えられますので、自分の時間割表を履修科目の担当教員に事前に手渡しておくなどの工夫をしてください。

#### <既修得単位の申請及び履修上の留意点>

- ①既修得単位の申請書の記入に当たっては、編入時の個別履修指導担当教員及び事務職員による指導を受けること。また、取得希望資格・免許に変更があった場合は、上記の教員、ゼミ担当教員及び事務に申し出ること。
- ②本学の卒業必修科目は必ず履修すること。ただし、1・2 年次の卒業必修科目及び個別認定された科目は修得したものとみなす。
- ③学士（教育学）を認定する学部の性質上、「子ども育成入門」「子ども育成論」「教育原理」「教育心理学」「発達心理学」は必ず修得すること。
- ④包括認定単位数は 60 単位（教養科目 35 単位、専門科目 25 単位）を上限とする。但し、教養科目については申請単位数の上限も 35 単位とする。なお、資格・免許に関係する科目に関しては、それに加えて法令上の必修科目を個別に読み替えて単位認定するが、個別認定されない法令上の必修科目は本学で必ず修得すること。
- ⑤幼稚園または小学校教員免許状取得希望の場合、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（「日本国憲法」「体育講義」「体育実技」「英語 I」「英語 II」「情報処理演習」）を必ず修得すること。
- ⑥保育士資格取得希望の場合は、「富山国際大学保育士養成課程の履修に関する規程」第 7 条 1 項及び 2 項を参照すること。
- ⑦本学の自由科目は、認定する授業科目等の卒業要件単位には含まない。  
(卒業要件単位 124 単位以上：教養科目 35 単位以上、専門科目 89 単位以上)
- ⑧認定する授業科目等の評価「P」は単位認定科目を意味する。（本学学則第 27 条参照）

#### 4. 履修のしかた

##### 4-1 単位制度と卒業要件

###### (1) 単位の計算方法

講義及び演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とします。実習及び実技については 30 時間の授業をもって 1 単位とします。ただし、一部の実習科目については、40 時間の授業をもって 1 単位とします。

###### (2) 授業時間と学修時間

単位計算の基礎はすべて時間単位で計算し、45 分の授業をもって 1 時間の学修時間とみなします。1 コマの授業時間は 90 分で、2 時間の学修時間を意味します。

###### (3) 学期と授業回数

子ども育成学部の授業は原則として前期 15 週、後期 15 週に分けて行われます。ただし、前期 15 週と後期 15 週の 30 週で行われる授業科目（通年科目）もあります。

###### (4) 単位の修得

- ・ 単位は、履修を修了した授業科目について試験を行い、成績評価が合格となった場合に修得となります。ただし、試験の代わりにレポート、論文等の提出をもって成績評価をすることもあります（詳細は、各科目の時間で説明されます）。
- ・ 履修の修了とは、履修登録をした授業科目について、所定の時間（半期、または通年）の授業を受け終わった場合をいい、履修の修了は単位修得の条件です。

<授業科目の履修に関する規程第 9 条・10 条参照>

###### (5) 卒業要件と進級要件

- ・ 子ども育成学部の学生は、教養科目から 35 単位以上、専門科目から 89 単位以上、計 124 単位以上を修得することが卒業要件となります。
- ・ 2 年次末までに必修科目（45 単位）について未修得単位がある場合は、原則として 3 年次への進級が認められません。ただし、上記必修科目のうち 5 分の 4 以上を修得した場合は、3 年次への進級を認める場合があります。
- ・ この場合、3 年次の一年間で、2 年次末までの必修科目の未修得単位を修得できなければ、原則として 4 年次への進級を認めません。

<授業科目の履修に関する規程第 21 条参照>

##### 4-2 履修に関する注意と心得

###### (1) 履修計画に関する留意事項

卒業に必要な単位数は 124 単位以上ですが、これは最低単位数です。将来の進路に必要な資格免許に関する必要単位等を考えながら、自らの自発性に基づいて履修計画を立てることが望されます。

###### ① 教養科目

- ・ 「教養演習」は、専任教員で構成するゼミ担当教員が担当します。あらかじめ割り当てられた教員の演習を履修します。
- ・ 必修の演習及び実技科目は、時間割表で割り当てられた授業を受講します。

###### ② 専門科目

- ・ 「実習」科目は、履修のための成績等の条件があります。ゼミ担当教員や実習指導の担当教員とよく相談して、条件を満たすことができるように努力してください。
- ・ 「卒業研究」は 3、4 年次と連続して行われます。卒業論文の作成を目標にゼミ担当教員が直接指導しますが、卒業論文のテーマ設定・作成等についてはゼミ担当教員によく相談しながら進めなければなりません。授業で学んだ知識や知見を集大成する能力が要求されますので、日頃の学習の積み上げが大切です。

## (2)長期展望に基づく履修プラン

- 子ども育成学部の特色は、子ども育成の専門家としてふさわしい力を身につけるため、教育・保育・福祉を総合的に学ぶことができることです。そのため、できるだけ幅広い分野を学ぶことが求められ、複数の資格・免許を取得することを奨励しています。
- 入学時及び毎学期に行われるオリエンテーションには、必ず出席してください。履修プランを立てるときは、学務担当教員及び学務担当事務職員、ゼミ担当教員などと十分に話し合ってください。
- ゼミ担当教員は履修プランだけでなく、学生が有意義な大学生活を送れるように様々な問題について適宜指導やアドバイスを行います。

<履修指導計画参照>

## (3)現代社会学部、富山短期大学の科目の履修について

現代社会学部や富山短期大学の科目は、自由単位として履修することができます。ただし、子ども育成学部が読み替えを承認した場合以外は、卒業単位には算入できないので注意してください。

## (4)履修科目の登録について

1セメスター（学期）あたりの履修登録の上限は原則として22単位（年間では44単位）です。必修科目は必ず履修登録してください。ただし、資格免許取得に関する科目に関しては、例外的措置も可能ですから、ゼミ担当教員に相談してください。

## (5)履修登録上の留意点

- 各年次における前期、後期の初めに、それぞれ本人が履修登録をしなければなりません。
- 同一時間帯に2科目以上の重複履修はできません。
- それぞれの年次及び配当された曜日、时限に従って履修しなければなりません。
- 履修登録が行われていない授業科目の受講・受験及び単位の修得はできません。
- 履修登録した科目の取り消しは、原則、認めません。

## (6)履修登録の手続方法

各セメスターのはじめに、授業科目の中から履修する科目を、以下のとおりに登録しなければなりません。履修登録は、コンピュータ入力のみです。指定された期限までに登録が完了していない場合は、履修の権利を放棄したものとみなされます。

2021年度履修登録スケジュール

学期	履修登録期間	履修登録確認期間
前期	4月 8日(木)～4月 14日(水)	4月 15日(木)12時20分～4月 21日(水)
後期	9月 29日(水)～10月 5日(火)	10月 6日(水)12時20分～10月 12日(火)

※いずれも、最終日の締切時間は15時です。これを過ぎると受け付けません。

### ・履修登録場所

原則、自己所有のパソコンで大学のホームページにアクセスし、登録してください。また、E館のラウンジスペースに備え付けてあるパソコンでも登録ができます。

## (7)履修登録の取消しについて

履修登録の取消しに関する届出用紙は、事務室にありますので、必要事項を記載して提出してください。

### 4-3 成績評価及び成績発表

- 単位の修得は、学期末の試験の結果によりますが、授業科目によっては、教室における授業期間中に行う筆記試験、レポートの提出、普段の学習状況等により総合的に判定します。
- 授業への欠席が多い場合、成績評価が低くなることがあります。また、欠席回数が3分の1を超えた場合は、期末試験の受験資格を失いますので、注意してください。

## II. 子ども育成学部

---

- (3) 成績評価基準は13ページのとおりです。
- (4) S及びAの比率、及び資格免許に関わる科目の成績が一定の水準に達しない場合は、学外実習の履修が延期、または許可されない場合がありますので注意してください。
- (5) 成績評価に疑義がある場合は、その科目を受講した翌学期の履修登録期間中に呉羽キャンパス事務室まで申し出てください。科目の担当教員が調査し、結果を履修登録変更期間中に回答します。詳しくは、「富山国際大学子ども育成学部授業科目の履修に関する規程」によって定められていますので、よく読んでおいてください。

